

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	中央区地域包括支援センター
提出日	令和6年7月4日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	問題の早期発見・相談に必要な地域包括支援センターの周知啓発	
地域ケア会議から 見えてきた課題	困りごとを抱えている住民がいても、家族や周囲の住民は相談することをためらったり、相談先がわからないまま、状況が悪化する。	
対象	地域住民、高齢者の家族、地域活動の担い手	
地域特性	区全体では高齢化率は大阪市内でも低い方であるが、地域によっては高齢化率の進んでいる地域もあり、独居率も高い。圏域は繁華街、ビジネス街、古い住宅が多く残る地域と多様であり、高層マンションの建設が進む一方で、生活保護を受給する独居高齢者が多く住む地域、外国籍の住民が多く住む地域もある。圏域内には12の地域があり、それぞれ細やかな地域ネットワークがあり、百歳体操、ふれあい喫茶等の高齢者が集う場がある。	
活動目標	本人や家族、地域住民が、地域包括支援センターの役割や働きを理解することで、高齢者の困りごとを「地域包括支援センターに相談できること」と結び付け、いち早く支援につながる地域をめざす。従来のような住民が集まる「場」を活用した取組みが難しい状況において、その時々々の流行状況を見ながら、感染対策を行ったうえでの出前講座、座談会の開催や、課題や情報の共有を効果的にできる方法を検討していく。オンラインを活用した取組みや、活動再開に合わせた周知、新しい取組みを検討する。	
活動内容 (具体的取組み)	・地域出前講座、地域座談会の開催 地域の集いの場を活用して包括の周知、虐待防止、介護保険について、フレイル予防、消費者被害防止等のテーマで出前講座を開催。地域座談会は4地域で町会、民生委員会、地域福祉コーディネーター等と連携して個別ケースの共有、地域課題の解決に向けた意見交換の場の開催等を全て集合型で行った。 ・周知物の作成と効果的な活用及び配布 「もも通信 (包括の広報紙)」を年3回発行し、地域、区役所、老人福祉センター、地域で活動するボランティア等に配布。法人の広報紙やホームページ、「広報ちゅうおう」でも情報発信を行った。 ・民生委員とのつながり強化 地域座談会、見守り連絡会を通じた定期的に連携を図るほか、個別ケース会議にも参加を呼びかけた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域の出前講座は全36回開催し、合計1,054名参加。出前講座の後で相談を受け、継続支援のケースもある。「広報ちゅうおう」を見た、と複数相談が上がった。またホームページからメールで相談できるようにしたこと家族から高齢者の相談があり、若い世代には効果があった。 ・地域座談会では、効果的な話し合いができるような工夫やテーマ設定等地域関係者と打ち合わせを重ね、開催後は振り返りを行い、地域課題の解決に向けて地域でできることを検討した。座談会を開催している地域では包括と顔の見える関係ができており、他の地域に比べて民生委員、地域福祉コーディネーターからの相談件数が多い。	
今後の課題	地域の活動に参加している人には包括の周知を継続的に行っているが、地域とつながりのない人に包括を知ってもらい、早期に相談につながるようにするかが課題である。そのために包括パンフレットやもも通信の配架先を拡大するとともに、高齢者の家族に包括を周知する方法として、ICTを活用した情報発信の工夫等について今後検討していく。また、家族と疎遠な独居高齢者は変化に気づく人が身近にいないため、地域の民生委員、地域福祉コーディネーター、町会役員等に気になる高齢者の情報を早期に相談してもらえるよう、継続的に連携する機会をつくる。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月24日 (水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント	事業所や多職種だけでなく、地域住民や地域の団体と密に連携を取りながら実施している取組みである。出前講座や座談会が開催できた地域では、他地域よりも相談件数が増えるという結果が出ており、効果的な取組みだと評価できる。引き続き継続してもらいたい。	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		